
邪神の加護を受けし物

くるみい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

邪神の加護を受けし物

【Nコード】

N1285Y

【作者名】

くるみ

【あらすじ】

いきなり不幸になった少年がいた、世界に疎まれた少年がいた、世界に棄てられた少年がいた、別のところで流行の「異世界落とし」で人間観察をしようとしていた邪神がいた、邪神が少年を面白そうだと拾った、しかし、拾った少年は変わって性格で二人の距離は次第に縮み、そして、二人は遠い昔に求めることをやめ、傷の舐め合いだと笑っていた「友情」という「絆」を手に入れた、この物語は心がすさんでしまった少年と時々遊びにくる邪神の物が「なにシリアスっぽくしてんだ馬鹿作者」「やはりただのバカか」ちょw今

あらすじだ！お前等！「いや、これコメディだろ？」「いやバトル
コメディらしいの」「いや、恋愛も入れるけどな」「な・・・なん・・・
だと！？！？」「！？お主・・・死ぬ気か！？」お前等削除するぞ
！「お前の夢が壊れるだけだぜ」「う”「やはりバカか」

1) 挨拶及び小説説明（前書き）

この小説の詳細とご挨拶

1) 挨拶及び小説説明

どうも、くるみというものです。

他の作者の方々の小説を見て、書きたいと思って文才もなく文法なにそれwおいしいの？

という状態の私が小説を書きます。

さて、この小説についてですが、できる限り独自で考えていますが、やはりくるみの能力では厳しいイベントや、恋愛方面の運び方などは他の作者の作品を参考にする場合があります（もちろん許可は取ってからです）そしてこの転生最強チートオリ主のヒロインはちうたん、茶々丸、アキラ（崩壊）あたりで逝こうかと思っっています
が、読者様方にアンケートをとって追加する！ということもあると思います。

ですが！！このちゃん、せつちゃん！この二人を選択する貴方！
気をつけて、作者の能力じゃ再現できないかもです。主に口調。それでもいいという方はアンケートどうも、くるみというものです。
他の作者の方々の小説を見て、書きたいと思って文才もなく文法なにそれwおいしいの？
という状態の私が小説を書きます。

あとこの小説の書き方ですが、オリ主視点で地文も主人公寄りになっています。

世界観や登場人物の考え方が違う！！といわれる前に言いますが、思いつきり独自設定入ってます、それはもうコレでもかというくらいに突っ込んでますよ。ええ。突っ込んでます。突っ込んでますよ！ゲフンゲフン・・・詳細はお話の中と設定説明で書いておきます。
能力に関しては第2話あたりで説明があるのでそちらでご確認を。

次に投稿関係ですが、2日に1話くらい、「妄想がWとWまWんW
ねWえW W W」とか気持ち悪いことになったら連続投稿します。

1) 挨拶及び小説説明(後書き)

どうも、この小説を閲覧していただきありがとうございます。

さて、いきなりですがアンケートします！！ヒロインです！アンケートです！ワーワーパフパフモミモミ！

ヒロインは学園生徒でお願いします。とーこ先生は好きなのですが使い辛く、作者の能力では無理ということが判明したので除外させていただきます>>

あ、でも、上位食い込んでたら書きます。書くしか・・・ないじゃないか！

出会い（前書き）

少年が棄てられ、邪神と出会います

出会い

side少年

「暗い・・・どこだここ・・・確か家でゲームしてたはずなんだけどな・・・」

気がついたら真っ暗な空間に居た、自分がそこに存在しているかもわからないほどの闇、訳のわからない不安が押し寄せくるような闇。

「これは・・・夢・・・じゃない・・・なんで！？俺がなにかしたかよ！！！」

夢だと逃げたかったが本能がわかっていた　　コレハ夢ジャナイ

そこで俺の意識は一旦なくなった。

side邪神

「やべー・・・超暇・・・」

私こと邪神はとても暇である。俺は力が強すぎるので回りに誰もよってこない、天界の討伐だの何だのほざくバカ共か、俺に罪を償って正しい神になれとか言うあの慈悲女しか俺のところに来ない。来たとしても100年に1回程度

「あー、なんか面白いことないか・・・探すか」

そうと決まれば情報収集！力任せにアカシックレコードをこじ開ける

「なんか糞屑ゴミの神共の間で”異世界落とし”が流行ってるらしいな・・・」

ふむ、あのゴミ共にしては良い遊びを考えたもんだ！これで人間観察でもするか

「そうと決まれば人材を・・・ん？」

アカシックレコードを閉じようとしたら誰かが世界から追放されたようだ

「は？世界から追放されるって何やったんだよ・・・まあこいつ面白そうだ・・・こいつにするかw」

side out

side 京夜

俺こと京夜は中学3年生8月までは普通な不幸の生活を送っていた。

だがある日から異常な不幸に見舞われた、といっても、昔から不幸だったが、親が死んで、遺産目当ての親族、遺産目当てのクラスメートの女、前々から不幸だったがレベルが違うことが起き始めた、痴漢疑惑だったり、ぼーかろいど 音のカゲ ウデ ズがビツクリを起こすような・・・例を挙げると、トラック突っ込んできたり、

鉄柱落ちてきたり、AK乱射してる薬中に追い掛け回されたり、変なお前はでてけ〜とかいう変な夢を見たり、とにかく2ヶ月間不幸の連続だった。

そしてなんでいきなりこんなこと話してるかというところでもしないと頭がおかしき「おい！・・・聞こえたら返事をしてくれんか」

「・・・ん？」

side out

side 邪神

「おい！（あぶね、元の口調で言うところだった）聞こえたら返事してくれんか」

「・・・ん？」

（お・・・パスが通った、引き上げるか）

side out

side 京夜

え？は？え？は？何が起こった

「ふむ、困惑してるところ悪いがの、聞いてくれんか」

(誰だこいつ・・・ああ・・・神様ってやつか・・・プライバシーは守ってくれてるのかな?)

「どうした?いつまで放心しておる

」

(ふむ心は読んでないみたいだな。あまり返事しないと読まれるかもしれない)

邪神は心を操れるので読む必要がないので覚えていないから読めませんww

(なにか受信した気が)

「あの、貴方は神様で間違ってますよね?」

「うむ、間違いないぞ」

(やっぱりか)

「私を地球に戻してください早く今すぐ! ASAP!」(できるだけ早く)「

「あー・・・それが・・・のう・・・」

(ん?なんか違和感が・・・)

「お主を間違えてあの世界から隔離してもうた!すまんのw」

「・・・は?・・・といつと?」

「うむ。もうあの世界には戻れん、だが他の世界に転生させてやる。もちろんその世界ですぐ死なないように能力もつけてやるぞい」

(・・・おかしい・・・だったらあの空間は？それのこの人は何か変な感じが・・・そうなにか・・・嘘を・・・嘘？・・・ああ・・・もうヤケだ・・・カマかけよ・・・)

「あんたさ・・・もうわかってるぜ・・・バレてるバレてる、もう遊びはやめようぜ？」

「ッ！なんのことじゃ？」

「あんたが隠してることだよ」

(この言い方だったら、慌てていたら、人格、性格、しゃべり方、事情、全部の嘘に対応できる・・・)

side out

side邪神

(あーだりー、さっさと観察してーな、能力適当だいいよなーなにがいいか・・・)

「うむ。もうあの世界には戻れん、だが他の世界に転生させてやる。もちろんその世界ですぐ死なないように能力もつけてやるぞい」

「あんたさ・・・もうわかってるぜ・・・バレてるバレてる、もう

遊びはやめようぜ?」

(なっ!?!?なにが・・・カマか・・・!?!?慌てるな・・・慌てたら俺の人間観察ができなくなる・・・)

「ッ!なんのことじゃ?」

「あんたが隠してるってことだよ」

(こいつ・・・)

「ハア・・・めんどくせーな・・・せっかく面白そうだったのによ・・・」

side out

side 邪神

「ハア・・・めんどくせーな・・・せっかく面白そうだったのによ・・・」

(きた!かかったか・・・)

「くくっ・・・ただのカマだったのにな・・・」

「あ”あ”!?!?カマあ!?!?・・・ハア・・・なさけねえ・・・」

「あー・・・あんた邪神かなんか?」

「ツツ！ああ、そうだけどなにか？」

(切れてるな・・・まあカマに引っかけたらこうなるか・・・)

「なんで俺を隔離した？」

「ちがーよお前は世界に棄てられたんだ」

「は？」

「お前が何かしたんじゃないか？」

(・・・あの変な夢か！あれは世界だったのか・・・！？つかなんだよ”棄てた”って！俺が何かしたのかよ！俺はただ・・・)

「！？おい！小僧！おい！落ち着け！」

「あ・・・？え？」

「・・・お前の棄てられた理由が今わかったよ」

「なに！？教えてくれ！なにが！？！？」

「お前は・・・器がでかすぎるんだよ」

「器・・・？」

「器ってのは、簡単に言えば力・・・パワーを入れておくもんだ」

「それが大きいって・・・？」

「まあ世界が数十個入っても問題ないような・・・器・・・まあ俺の100万分の1くらいだけだな」

「あんたがチート性能なのはわかったから早く俺について説明しろks」

「お前口悪くなってきてるな、いやそつちが素か？ま、いや、まあ器だけ大きいなら別に世界もお前を追い出したりはしなかっただろうな。だがお前はあの地球を持つてる力に方向を加えてぶつけるだけで木っ端微塵にできるような力を持つてるんだ。だから・・・棄てられた」

「・・・ごめん、スケールがでかすぎて・・・」

「まあ・・・お前は俺の次にチートだな。他の神でさえデコピン瞬殺あぼぼーんwwってな風な」

「神を瞬殺・・・なあ・・・もしかして・・・」

「あ？」

「さっきの話ってまだ適応中！？！？（超興奮）

「え・・・いや・・・」

「どつちだ！家！？AIBO！」

「落ち着けやあああああああああ！」

side out

side 京夜

「はあ・・・はあ・・・」

「なんかごめん、でもさ！最強じゃん！オリ主TUEE！ってできるよ！やったね！きよーちゃん！」

「おい！やめろ！それトラウマなんだよ！・・・ん・・・お前・・・力を使うってことは・・・」

「命を背負う覚悟があるか・・・でしょ・・・あるよ・・・あの闇は死後の世界だったんだろ・・・？怖かったよ、あんなの見てしまった後に命を簡単に奪えるほうがおかしいよ」

「見たのか・・・アレを・・・」

「うん・・・悲しみ・・・憎しみ・・・怒り・・・喜び・・・色々混ざり合っていた・・・」

「正確には死んだ魂の残留思念だ、本体は輪廻転生するからな。」

「でも・・・殆ど変わらないよ。あれはその人が生きてきた証拠であることに変わりない」

「くくく・・・」

「なんだよ、気持ちわるい」

「お前・・・面白いな・・・」

「・・・つぶ・・・なんだよ・・・シリアスだったのに」

「個人的に気に入った・・・お前を転生させてやる！俺の純度100%友情でできた邪神の加護+アニメとかの能力付だ！」

「なんだってー！そんな邪神様にしびれる！憧れるう！！！！！」

「まあ・・・もう手に入れることはないとおもっていたからな・・・この暖かさは・・・」

出会い(後書き)

はい、くるみいです！ははは文才無しいうな！gggg言つな！

あ、石投げない・・・あっ！いい！いい！

さて・・・今回は転生するために結構ゴリ押ししました。

邪神様も一緒に降ります。ですが殆ど下界であった女性とラブって
ます。(であった描写なし、もしかしたら書くかも・・・?)

世界の仕組みと能力付与

side 京夜

「あーそういえばさ、俺世界に棄てられたって言ったけど、アノ不幸はいったい何？」

「ああ、奇跡つてあるだろ？あれは世界が干渉してるからなんだが、現象を起こす程度、鉄柱落したりだとか、トラック運転手眠らしたりだとか、そういうのはその世界の生命体から1mmくらいの力ふんだくってできるんだが、追放とか、まあお前がされたやつだな。あれは世界の寿命を10分の1支払うって行使できるんだよ。俺は力小指程度でできるけどな？まあ、だから寿命を減らしたくないから奇跡を使ってお前を殺そうとした。殺したら天界の輪廻課に送られる、そして異常な力を持った魂はその力を取られるんだ。」

「なるほどなるほど」

「んじゃま、準備しますか、能力どうする？」

「んーなんでもいいの？」

「ああ、お前の器5%くらいしか埋まってないぞ」

「まじか！？それで地球木っ端微塵って・・・」

「あーそれ、説明長くなるが・・・聞くか？いや聞いとけ、自分の力にも関係するからな」

「ああ、頼むよ・・・暗くないよな？その話」

「大丈夫だ、問題ない。まあ世界・・・つつつても次元とか色々あるから一くくりにはできないんだが、俺らの次元の世界は”全界”、”上位界”、”中位界”、”下位界”、”離界”がある。”全界”は神や死神、悪魔、墮天使、神獣、その他が住む世界、神といわれる存在と悪魔という存在が仕切っている。ここまでで質問は？」

（ん？それって結構危ないんじゃない？）

「墮天使とかは大丈夫なのか？・・・その・・・他の天使たちと居て」

「前まではアレだったんだが、普通の神と墮天使とが子をなしてな、それで別にいいんじゃないかってことになったんだ。元々もう天使から墮天使になるってことはない、墮天使っつー一つの種族なんだ。」

「そうなのか、わかった続きを頼む」

「はいよ、それで”上位界”これは・・・あー世界っていうのは自然発生と神が作るのでは容量とかは変わらん、変わるのには耐久性だ、魔法ですぐぶつ壊れなかつたりとかな。まあそれでだ、”上位界”これは生命が自然によって生まれ育ち、進化していった世界だ。生命が自然から生まれたことによって新しい世界の糧となりやすい。」

（糧って・・・なんかいやな感じがするな。）

「糧になるって言うのはどういうことだ？」

「漫画とかアニメとか、そういう物が人気なる、そうするとその物語が世界になる。」

（そういう意味の糧か、なら問題ないな、問題があっても何もできないんだが・・・）

「把握した、それでそこに介入とかできるわけか」

「まあ実際、その物語の世界には介入できない。ま、この説明は後だ、んでだ、さっき言った世界とかが”中位界”に属する。だが”中位界”の殆どは激しい魔法、気のバトル物とかだ平凡日常とか、現実系の戦闘は”上位界”に属する。まあさっきいったが世界と人に神の加護をかけて世界を作る。人に加護をかけるのは、そうしないと魂が自分の放った破壊力に耐え切れないからだな。一気にいくぞ、次は”下位界”呼びづらいのは気にするな、即興だからな。まあ下位界は悪魔とかが荒らしすぎて神が介入しても再興不可能で寿命を待っただけの世界のことだ。まあ元の物語に、つてことで別に無法地帯で「ヒヤッハー」って意味じゃあない。そして”離界”俺たちがいる世界と世界の間に神が意図的に作った空間のことだ。」

「じゃあ離界つてのはそこまで重要じゃないのか？」

「ああ。お茶したいけど外がうるさいな、そうだ、離界を作ろう。こんな感じだ」

「軽いな！？おい！」

「んでお前の力は中位界と相性が良いから中位界に送るからな」

(相性がいいってどういうことだ???)

「相性がいいってどういうことだよ、つか俺に選択権は!?!」

「ねーよwww相性は世界が壊れ辛いつてことだ。お前の力ぶち込んでも壊れない。なんせ・・・俺が作った世界だからな!?!?!」

「・・・あつそ」

「ちょ!?!結構傷つくぞ!?!それ!?!・・・まあいい、んで能力決めるぞーお前の容量ならなんでもOKだから言えや。あ!?!でもあまりやりすぎると人格壊れるから注意しろ。あと送る世界は「ネギま!?!」だお前好きだったろ?あとお前の魔力、気はネギま、の全生命体の12乗くらいだから!?!」

「まあ、神超えてるんだから当たり前か、じゃあ能力は・・・」

- ・直死の魔眼：真理解状態、副作用なし
- ・見稽古　　：チート仕様
- ・超一流の曲弦師、音使いの能力
- ・武器・楽器のガンダールブ的な能力
- ・容姿を好きに変えられる力

・能力を作れる能力

「これくらいかなあ〜?」

(さっき怖いこと言われたからコレくらいしかできなかった・・・)

「・・・お前容赦ねえな・・・まあそれがお前か・・・」

「これでも譲歩したよ?」

「・・・もういい、んで俺もネギま!にいくからな「さてよ!俺のオリ主人生を邪魔する気か!俺の夢を!茶々丸は絶対n「いや、俺は介入しない、つか俺を普通の人は好きになれない、本能が避けるんだよ。」

(・・・そんなのってありかよ・・・それってずっと一人だったってことじゃねえか・・・)

「わりい・・・」

「ははは!なにしけた顔してんだよ!・・・お前は俺の友達じゃないのか?ノノノ」

「・・・つぶ・・・はははははは!恥ずかしいなら言つなよな!ははは!」

(そうだよな・・・俺がこいつを一人にさせなきゃいい・・・傷の舐め合いか・・・昔の俺もよく言ったもんだ・・・ははは!)

「~~~~~!!!もういくぞ!ほら!今すぐいくぞ!!!!」

「あゝ後もう1つ従者がほしい〜かわいい系か美しい系で！」

(ペット飼ってみたかったんだよな!!)

京夜は後で後悔する・・・なんでもっと詳細を言っておかなかったのかと・・・

side out

side 邪神

こいつ後で絶対殴る！思いっきりなぐる！ぜってーゆるさね!!!!!!

「~~~~!!!!もういくぞーほらー今すぐいくぞー!!!!」

「あゝ後もう1つ従者がほしい〜かわいい系か美しい系で！」

(あ?何言ってたんだこいつ、まあ当然か丁度一番性欲が出てくる時期だからな・・・)

「わかった、容姿は俺が造っていいのか？」

「おうよ!一番いいのを頼む(キリリ)」

(ふむ、久しぶりだな、従生命を作るのは・・・)

「よし！能力付与と従者製作は終わったぞ！」

「マジか〜！出発しようZEE!!!!!!」

「クスリッ・・・ああ・・・いこうか・・・」

（ああ・・・本当に・・・悪くない・・・お前は絶対に失わない・・・
・全界を滅ぼしてでも・・・な）

「じゃあいくぞ〜、転移陣起動ハ離界No.3221から中位界物語”ネギま！”平行世界No.235へ、【製造者・エルティアスに許可を申請します】【転移許可申請を許可しますか？】」

「んじゃいくぜ〜」

俺がさういうと申請を許可した。その瞬間俺たち二人を凄い光量が包み込んだ。

「ああ、俺とお前は基本別行動だ、強すぎるのが二人居ると世界が壊れるからな。」

「了解〜、遊びにこいよ〜？」

「わかってるよ。またな・・・”相棒”//」

「!・・・ああ！またな！”相棒”」

そして俺たちはネギま！へと旅立った

side out

side???

「まあ・・・あのエルが・・・ふふふ・・・罪を償うのではなく・・・罪と生きていくのですね・・・私はあなたが進むのを待っていませんよ。あの人の子には感謝しなければいけませんね。エル、いつでも会いに来てください、私は貴方の・・・」

母親なのですから・・・

世界の仕組みと能力付与（後書き）

どうも！くるみ입니다！今回は邪神の名前と慈悲女こと母親がでてきました。

エルティマス（以降エル）は昔犯した罪によって邪神となりましたが普通は母親さえも離れるのですがエルの母親だけはずっとエルのことを心配していました。

ヒロインアンケートですが、11/15までが第一次募集です。

邪神の悪戯と勘違い（前書き）

やっちゃった・・・俺の妄想大暴走！もうなにがなんだかわけわか
めwwww

ここからはa111京夜サイドです。分けると色々gdgdになりやす
いので、わかりやすくします。少し視点を分けないとわかり辛か
つたら別の話であげます。

邪神の悪戯と勘違い

あのバカみたいな光に包まれて数秒してやっと前が開けてきた。

「うー・・・目が・・・つとつあ・・・コレが死・・・、オフしとこ」

つかアイツいつの時代に飛ばしたんだよ・・・つか・・・体に違和感？よく体を観察する・・・

華奢で力をこめただけで折れそうな華奢な腕、同じく足、すっきりとした胴回り、鈴が鳴るような美しい声、少し膨らんだ胸、そしてなければならぬものがない・・・この条件から推測されるのは・・・

「あんの糞エルが嗚呼あああああああ！！！！！！！！つてあれ？なんで俺アイツの名前知ってた？まあアイツだから仕方ないか・・・どうせ能力付与のときに突っ込んだんだろうな・・・」

そして俺はアイツにもう一回出会ったら死の点を突くことを誓って歩き出した・・・が！

「貴様！連合の人間か！」

なにこの状況300くらい部隊がか弱い女の子を囲むってどうよ？

「え・・・あの・・・（涙目）」

「ゴフツ！」わが生涯に一片の悔いん「ここに俺の幻想が・・・」

なにこのカオス．．．．そして光を屈折させて俺の顔見たら超
かわいい〜．．．ハア．．．ん？

！？なんだ！？このアホみたいな力．．．って．．．え？なにあの
美しい人．．．女神ですか？

陶器のような肌、紺色の、だけどどこか透き通ったとても神々しい
髪、とても美しくかわいらしく整った顔．．．俺に引けをとらない
．．．！．．．．自分で言っただけ悲しくなった

「貴様等、私だけの可愛らしく可憐で儂いお嬢様の涙目を見たんだ
．．．イキテカエレルトオモウナヨ」

ちよ．．．殺気がやばい．．．つと．．．いきなり軽く．．．ああ
俺だけ外したのか．．．つてお嬢様？

「お嬢様．．．エルティアス様に創造していただいた従生命体でこ
ざいます。（美しい．．．このお方が私の主．．．ゴフ）」

「（吐血！？）ビクツ！え．．．従者？え？」

（．．．ああ．．．昔の俺．．．なんでもっと詳細に説明しなかつ
た！！！！！俺の歳って丁度そういうこと考える歳だからとか思っ
てやったんだろうなあ．．．嬉しくないわけじゃないけどさ むし
る超嬉しいなにこの女神）」

ビシャグチャ

「．．．え？」

一瞬で周りの人間がバラバラになっていた。

「さて、このような穢れた場所にずっと居てはいけません、少し移動しましょう。」

「え……あ……うん」

「ゴフア……！」

「ひゃああ！（ビクン！）」

「ブシュ！（愛は鼻から）」

「にゃああああ！（ビククン！）」

以降ループ

それにしてもこの体になってから精神が体に引つ張られてるような・
・感情とかじゃなくて考え方とかは前世の歳相応なんだけど女の
考え方、仕草とかが自然なんだよな、中では「俺」なのに「私」に
なってしまう。怖いさすが邪神怖い

「お嬢様、怖がらせてしまって申し「アリしゅ……アリスって呼んで！」……私の生涯に一片の悔いはありません……エルテ

「イアスさま創造していただきありがとうございました・・・」

（アリスはロリ、陶器肌と来たらこれしかないと思った・・・って考えてる暇じゃない！！）

「戻ってきて〜！お願い〜！」

「・・・」

うぐ・・・こうなったら俺の精神ダメージがカスタするが・・・

「ひっく・・・えぐ・・・起きてよお・・・」

「ガバツ！）すみません、お嬢様、私は少し幻想を見ていたようです。今も十分幻想卿ですが」

それより白いメイド服がブラッドな色になってますよ・・・

「では、アリスお嬢様「お嬢様は嫌っ」orzわ・・・わかりました・・・アリス・・・さ・・・様・・・う・・・」

「う・・・うん・・・（あ・・・コレってダメだったパティーン？）あ！そろそろ出発しよう！？」

「お嬢様はダメ・・・お嬢様がダメ・・・メイドなのに・・・アリス・・・様かわいいのに・・・可憐なのに・・・」

「ああ！もういいよ！お嬢様で！だから立ち直って！！」

「はい！では出発しましょう、私だけのお嬢様」

邪神の悪戯と勘違い（後書き）

変態メイド型従者登場もちろんあのナイフの人を参考にしました・
・！

登場人物説明

名前：アリス・K・ティアス Kは神戯^{カミギ} ブチ切れ時：零崎 狂夜

身長：150cm いくかいかないか ブチ切れ時182cm

体重：黙秘します (なんかイヤなんだよね)

一人称：「私」ブチ切れ時「俺」

容姿：透き通って光が当たると神々しく光り輝く髪を持ち陶器のよ
うな肌ととても可愛い顔、だが自我を忘れるほどブチ切れたら
元の京夜の姿に戻る。で左目が黄色で右目が青(左目が？で右目が
直死)

性格：(夜のみ)ドMというより周りが可愛さのあまりに攻め立て
まくるので全ての矛先が自分にくる。通常はノーマル、自分が気に
入らない奴や、正義バカには鬼畜DS

年齢：12歳 ブチ切れ時20歳

能力：世界の全生命体の総量を12乗した数が気・魔力・妖力・霊
力・神力(邪神の加護)

直死の魔眼：原作どおりの効果、だが副作用なし、完全に理解して
いるので”見る”ことができれば現象でさえ殺せる エヴァの呪い
など

見稽古：刀語のアレをチート仕様にしたもの。1度見たものを70%コピー、加護の才能、成長率強化によって1時間訓練すれば120%ほどになる

曲弦師・音使い：邪神のミスによって”才能”だけ与えたので戦闘ではまだ使えない

容姿を好きに変えられる：変えようとがんばったが従者の愛の力によって破壊された。任務のときのみ使用可能

能力を作る能力：コレはブチ切れた、または人を助けるためのときしか使用しません。

名前：エルティアス

身長：187cm

体重：わからない

一人称：俺 わし 俺様

容姿：ヘルシングの旦那のような容姿、だが内面はものすごく優しい、全身黒服を着るキン・ダム・ハーの黒機関みたいなのが戦闘服仕様武器は鎌

性格：基本優しいが外見で怖がられることが多い、京に会うまでは負で覆っていたため周りからは本能で避けられていたが京と在った

ことにより負がなくなり子供から好かれたり、普通に恋愛対象になつたりするようになった。ブチ切れる要素は、母親、恋人、京夜です。

年齢：1億あたりから数えていない邪神になつたのは2千万歳あたりなのでそれからずっと一人ぼっち、なので京夜を殺そうとするとブチ切れる。ならばエルからと手を出すと京夜がブチ切れるので打つ手なし

名前：フリージア 花言葉は「無邪気」「清香」「慈愛」「親愛の情」「期待」「純潔」「あこがれ」

身長：172cm少し背が高いが夜抱くときに苛めやすいので気にしていない

体重：「・・・(ニコニコ)・・・ 其は全てを燃やす始原の炎

其は全て平等に照らす光 ここに不浄を滅する神炎を！！！！

捌きの炎 ルミナス・フレア 「ぎゃあああああああああ！」

一人称：私

容姿：美しい紺色の髪でところどころに赤色のメッシュが入っている、光が当たると神々しく美しさを放つ、陶器のような白い肌と、美しいボディライン、体の全てが美しい、

性格：(夜のみ)超DS、通常はノーマル

年齢：“邪神の悪戯と勘違い”のときで1時間ちよつと

設定：使命などは命令として与えられメンドクサイと感じていたが
本人にあつて電流走る、この人にすべてささげようと思った。夜以
外は従順

登場人物説明（後書き）

今回は設定でした。4時間ちょっとなのですがもう見てくれる方がいてとてもうれしかったです^^ありがとうございます^^

鳥頭に女好きに犯罪者（前書き）

やばい、アリスとフリージアたのしい

鳥頭に女好きに犯罪者

sideナギ

おつす俺はナギ・スプリングフィールド！未来の英雄様だ！

まあ今は【紅き翼^{アラルプラ}】のリーダーをやっている！

まあそれはいいとして・・・

「これは一体なんだ・・・？この鋭い切り口・・・刀でもこうも見事には・・・」

「それほどなのですか？」

「ああ、アルか、この切り口はありえないほど鋭い私でも無理だろうな・・・」

な！？えーしゅんでも無理だあ！？

「おい！それまじか！？」

「ああ

「ですが、敵方を攻撃した、ということは”まだ”連合の敵ではないということですよ」

「そうだな、一旦戻ってみんなと話し合おう」

「ああ、そうだな！皆！一旦戻るぞ！！」

一体誰があんな・・・ああっ！考えんのは俺の仕事じゃねえ！俺はぶっ飛ばす！ただそれだけだ！！

side out

sideアリス

さて、まずは歩いてるわけですが・・・この従者異常に私の行動に敏感で転びそうになったらクレーター作るほどの速さで助けに入ってくる。マジで自然破壊やめて。ん？この気配・・・

「あれ？このでかい感じ・・・【紅き翼】??」

「つつ！私とアリスお嬢様の時間を邪魔するとは・・・ゴミ共が消失去ってやる・・・ククク」

「ちよっ！キャラが・・・変わってるよ！」

「では少しいつて来ますね」

(まずいますまずいます！これは、いきなりBAD ENDとかマジ勘弁してほしい・・・こうなったら・・・)

「一人にしないで・・・？(涙目)」

「バタッ」

ふう・・・なんとかフラグ回避・・・

「おい！そのやつら！」

ん？なんだあの赤毛・・・ってナギ！？それに詠春・・・ロリコン・・・
ヤバイとくに最後の・・・

「な・・・なんでしょうか・・・（プルプル）」

これやつときゃなんとかなる・・・あああああ！ロリコンがいる
の忘れた・・・

「ゴフアアアア！私の生涯に一片の悔いもありません・・・」

「君たちはここでなにをやっていたんだ・・・！？その女性は
大丈夫か！？」

「え・・・スルーですか？・・・フリージアは大丈夫だと思います・・・
」

「はい。問題ありません」

二人は顔を赤らめた・・・まあフリージアだしね、人間国宝だしね、
女神だしね

「ちょ・・・！／／／」

「・・・／／／」

「私の幻想卿・・・ふふ・・・」古代禁忌魔法

捌きの炎ルミナスフレア

ドゴオオオオオ！！！！！

「「「「！？」「「「

え・・・容赦なし？うそ・・・

「てめえ！なにしやがる！！」

そついいながら武器を手にする・・・

「なにいつてるんですか、こんな幼い子に発情するゴミなんて消毒するに限ります。私は発情しているのではなくて弄りたいんです！」

「それを世間では発情してるっていうんじゃない？」

さすが詠春ナイスツッコミ

「まあ、そんなことより、お前等強いな！俺の仲間になれ！！」

「はぁ・・・あんなロリコンがいるところ」「いいですよ」「お嬢様あ
！？！？！？！？」

「いくところないですしね、別にいいじゃない？守ってくれるんで
しょ？（ニッコ）」

「！・・・はい、わが主・・・」

「これで鼻血を流してなければ完璧だったな」

言わないで上げて詠春

鳥頭に女好きに犯罪者（後書き）

はい！くるみいです。

今回は紅き翼に加入する場面です。

ヒロインアンケート11/15まで！

初めてのフチ切れ（前書き）

今回は切れたらどうなるのか〜というおはなしです。

初めてのブチ切れ

ナギたちと一緒に行動して結構時間が経ったんだけど・・・

アルビレオが異常に私に話しかけてくる。コスプレは好きかとか、色々そしていやらしい目で見えてくる。そしてルミナスフレアで燃やされてる。まあそれはいいとして、

いま、戦場にいます。

「黄昏の姫御子まで出してくるとは・・・」

「だって王族だろ！？まだ小さい女の子だって言うし・・・」

「ナギ、冷静にそしてうるさい」

多分私が一番イラツイテル、なにかわからないけど昔から力による強制的なものには胸焼けがするほど嫌悪感を抱いていたがこの頃それが激しい。

「・・・アリスお前が一番落ち着け・・・その殺気に当てられてはたまらない・・・」

「・・・ごめん」

「殺気にあふれるお嬢様・・・ああ！でもそれがいい！！」

「空気を読んでください」

「「「「アルがアリス関連で真面目なことをいつた!?!?!?」」」」

「いくら私でも怒りますよ?#」

「冗談だつての!アル!」

「ナギ!鬼神兵が向かつてる塔だ!」

「わかつたぜ・・・っち!おい!アリス先にいけ!お前のそのチー
トなら抜ける!」

「わかつた!フリージアはみんなの援護お願い」

「承知」

間に合つて・・・アスナ・・・

着いた!あれは・・・アスナ!?!?・・・体の中がボロボロだ・・・酷
い・・・ミニクイ・・・

何でこんなこと・・・ アイツラトオナジ・・・

「貴方たち・・・そんな子供まで担ぎ出すことはないわ・・・」

「お前は・・・紅き翼・・・【神速の槍】・・・」

「つく！こいつは私たちの”所有物”だ貴様に言われる筋合いはない！！」

「ピク）なんていいました？よく聞こえませんでした・・・」

コイツイマナントイツタ？

「こいつは私の”所有物”だ・・・」

クロス

ゴオオオオオオオオ！！！！！！！！！！

そんな暴風が吹くほどの風と共に現れた黒髪の男、金色の目と青色の目をした男、
ただ目の前の蟲を駆除するという眼をした男。人目でわかった、こいつは・・・

圧倒的強者

気がついたら瓦礫の上に立っていた、アノ老害が所有物といった瞬間からの記憶はある。

記憶が正しければ仲間を攻撃してしまった、、私の力が未熟なせいだ……

「やっととまったか、このじゃじゃ馬むすめえええ……！」

とナギがいう

「夕凧が粉碎するかと思った」

と詠春がいう

「他のみんなは……？」

と私が震えた声で言う

「皆は……」

「え……？」

「お前の後ろだww」

「ああ……お嬢様のおい……」

「にゃあああああああああああああ！……！」

所変わって野宿中。皆には私が回復を施した。さすがチート万能だ
その後今回のことを謝った……が皆気にしてないといい私を殴っ
た！痛い！

チートボディといっても痛いものは痛いのだ！！

そして今鍋の準備中！あんなことがあったので今日は景気祝いだそ
うだ。

そこまで祝う……というか……ねえ……もっとシンミリとか
暗いとかじゃないの？

まあこいつ等バカだしね……私だけ気にするのバカらしくなって
きた……

「んっふふっこいつが旧世界は、日本の鍋料理ってやつかあ」

「じゃ、早速肉を」

「あつ、ナギ、おまつ・・・何、肉を先に入れてるんだよ」

「トカゲ肉でも旨いのかのう?」

鍋のやり方がなつてないな・・・。その辺は詠春に任せるが、面倒だから!そして言い忘れていたがいま鍋をしている!・・・ナベ?鍋ってアイツがこなかったっけ・・・あの筋肉達磨がくるんじやなかったっけか!?あれ?記憶があいまいなんだよ「食事中失礼」ッ!!!」ああ・・・私は正しかった

「俺は放浪の傭兵剣士、ジャック・ラカン!!!いっちょやろうぜッ」

まあ・・・本を読んで時はあまり思わなかったですけど目の前でやられると・・・ねえ?

「何じゃ?あのバカは?」

「帝国のつて訳じゃなさそーだな。えいしゅ・・・お、お!?!」

「フ・・・フフフフ・・・食べ物を粗末にするものは・・・!?!?!?」

「あはは!おじさん・・・すこしOHANASHIしようか・・・!」

「「「「「さて逃げよう」」」」」

「お嬢様・・・美しいです・・・」

初めてのフチ切れ（後書き）

こんなgdgdで大丈夫か？大丈夫じゃない・・・大問題だ！

初めての夜

私は今、宿の部屋に居る、一旦ナギたちと離れた、事情は・・・まあこの前のあれだ
やっぱりあんな簡単に割り切れない

はあ・・・あんなことがあって・・・あれ？私心の中でも私になつてない？

まあ、そこまで気にしないけどさ、

「あら、まだ起きていたんですか？」

「リーザ・・・」

ちなみに長いということと愛称はリーザになった。もっとどうでもいいけど二つ名は【断罪^{ギロチン}の女神^{マリファ}】という二つ名だ、

「あれは仕方ありませんよ、いくら加護でも、いくら友情だったとしても、その加護は”邪神”の加護なのですから」

「う・・・ぐす・・・えぐ・・・でも・・・」

「ですが貴方が悪くないわけではありません、もう少し感情を制御できるようになってください。もうこれ以上大切なものを傷つけないように」

「うん・・・ねえ・・・」

「はい？なんでs」ギユ「!?!?」

「少しこのまま・・・」

sideリーザ

ヤバイヤバイヤバイコレハヤバイあんな「感情を制御しろ（キリリ）」とか言っておきながら襲うとかシャレになりませんヤバ・・・

「ああ・あ・あ・・・ああのお嬢様ままま？」

「・・・ん？」

「感情の制御ってとても難しいんですね・・・（遠い目）「へ？」すみません・・・私”本能”に従わせていただきます」

「え？ちよ？ま？え？・・・うん？えーっと・・・」

（カーツ／／）（サツ！）（逃げる音）ガシィ！

「逃がしません・・・誘ったお嬢様が悪いんですよ・・・？」

「え・・・あう・・・／／／」

「なあ・・・？」

楽しみましょう？

初めての夜（後書き）

さてはて一線を越えました！
後悔も反省もしない！だが・・・私の黒歴史の一部になったと言っ
ておこらう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1285y/>

邪神の加護を受けし物

2011年11月2日01時27分発行